3. 事業概要

(1) 常　設　展　示

常設展示室は全体で５室の構成となっている。第１室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第２室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第３室は芥川龍之介コーナー、第４室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第５室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年２回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第１～４室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年４回、一部の資料の入れ替えを行い、第１室の一画にコーナーを設け、期間限定で資料を公開した。また、平成26年１月30日（木）～３月16日（日）にかけ、全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ―天災地変と文学」展を、第３室芥川コーナーで行った。

資料一覧には、この期間中、出品された資料すべてを提示した。

◆春の常設展　3/19（火）～6/9（日）
　期間限定公開　3/19（火）～4/28（日）長塚節　三井甲之宛書簡　1909（明治42）年６月17日
　　4/29（月）～6/9（日）二葉亭四迷　内田魯庵宛書簡　1906（明治39）年８月７日
◆夏の常設展　6/11（火）～9/1（日）村岡花子生誕120年　村岡花子「赤毛のアン」翻訳原稿、前田晁宛書簡
◆秋の常設展　9/3（火）～12/1（日）
　期間限定公開　9/3（火）～10/18（金）窪田空穂「兄かはに並ふ弟川ほそぼそと青山峡を流れてくだる」軸装
　　10/19（土）～12/1（日）足立源一郎「瑞牆山新秋　富士見平にて」油彩　1966年／
　　「日本の山旅」スケッチ画
◆冬の常設展　12/3（火）～3/16（日）深沢七郎　生誕100年　深沢七郎「楢山節考」草稿及び原稿、『笛吹川』
　　草稿、深沢七郎書簡など。

第1室

山梨の文学風土

甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

松尾芭蕉と甲州

杉山杉風「芭蕉翁馬上吟図」軸装〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵
松尾芭蕉　森川許六宛書簡　元禄５年11月13日　軸装〈複製〉原本　個人蔵
高山麋塒　一瀬調実宛書簡　年不明12月19日〈複製〉原本　個人蔵
猪来編『蓑虫庵小集』文政７年自序〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』巻之十五　元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政６年刊

甲府学問所　徽典館

甲府勤番支配宛　徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明３年９月刊
萩原元克「うまひとの」短冊
本居宣長点　辻守瓶「春十首」和歌

樋口一葉（ひぐち　いちよう）

樋口一葉「さゞれいしの昔よりして契りけん岩ねをめぐるたに河のみづ」短冊幅
馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」幅
樋口一葉「本郷五丁目」草稿幅
鏑木清方「たけくらべ絵巻」画稿　酉の市の夜の吉原
新五千円札（A000006A番）
青海学校小学高等科第四級卒業證書
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵　短冊ばさみ
写真パネル　母多喜・奈津（７歳頃）・姉ふじ・妹くに　本郷６丁目５番屋敷時代
写真パネル　左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作　薩摩焼絵付皿
写真パネル　萩の舎集合写真
写真パネル　半井桃水
写真パネル　武内桂舟 画「うもれ木」第７回挿絵
写真パネル　文学界同人
樋口一葉「闇桜」未定稿〈複製〉原本　台東区立一葉記念館
「武蔵野」第１輯　1892（明治25）年３月　今古堂
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
「文芸倶楽部」第２巻第５号　1896（明治29）年４月
「にごりえ」台本　1962（昭和37）年９月　新橋演舞場
「うもれ木」未定稿　1892（明治25）年
感想・聞書９（残簡その三）巻子
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
写真パネル　一葉女史建碑の日　1922（大正11）年10月15日
馬場孤蝶　編集・校訂『一葉全集』前編　1912（明治45）年５月　博文館
一葉　馬場孤蝶宛書簡　1895（明治28）年９月17日
一葉　雨宮源吉宛書簡　1893（明治26）年12月７日
一葉　伊庭隆次宛書簡　1893（明治26）年４月24日
詠草　1895（明治28）年９月
一葉筆手習い帖「徒然草」
一葉筆手習い帖「竹取物語」
一葉筆手習い帖「伊勢物語」

第２室

井伏鱒二（いぶせ　ますじ）

井伏鱒二「花にあらしの」幅
井伏鱒二「仲秋明月」幅
井伏鱒二「歳末閑居一節」額装
井伏鱒二「近逢春時」額装
井伏鱒二「あれは誰の山だ　どつしりとしたあの山は」色紙
映画「黒い雨」ポスター
写真パネル　栃代川にて 飯田龍太と　1963年４月16日
井伏鱒二『山椒魚』1976（昭和51）年９月　成瀬書房
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月　新潮社
愛用の釣り竿と魚籠
井伏鱒二『小黒坂の猪』1974（昭和49）年７月　筑摩書房
井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年４月　弥生書房

井伏鱒二「青柳瑞穂と骨董」原稿
「文藝春秋」第50巻第２号　1972（昭和47）年２月
井伏鱒二「九月二十日記」原稿

太宰　治（だざい　おさむ）

写真パネル　石原家の人々と　1939（昭和14）年元旦
写真パネル　太宰と妻美知子の結婚式　1939（昭和14）年１月８日
写真パネル　中学時代、兄弟たちと
写真パネル　天下茶屋
写真パネル　御坂峠文学碑除幕式
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」（表面）拓本幅
太宰治文学碑　撰文（裏面）拓本幅
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年４月　砂子屋書房
太宰治『右大臣実朝』1943（昭和18）年９月　錦城出版社
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
太宰治『晩年』1936（昭和11）年６月　砂子屋書房
太宰治　浅見淵宛書簡　1935（昭和10）年11月22日〈複製〉
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1936（昭和11）年９月日不詳
太宰治『虚構の彷徨　ダス・ゲマイネ』1937（昭和12）年６月　新潮社　新選純文学叢書
太宰治「我が名はせまき門の番卒」色紙
井伏鱒二 画　太宰治 賛　高田英之助像
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1941（昭和16）年６月25日　複製
太宰治　北芳四郎宛書簡　1938（昭和13）年９月19日
太宰治　井伏鱒二宛葉書　1938（昭和13）年９月30日消印
太宰治　熊王徳平宛葉書　1944（昭和19）年９月10日
太宰治　青木辰雄宛葉書　1945（昭和20）年10月30日　複製
太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉
太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年８月　筑摩書房
映画「ヴィヨンの妻」パンフレット　2009（平成21）年　東宝
太宰治「人間失格」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
映画「人間失格」パンフレット　2010（平成22）年　角川映画
太宰治「斜陽」原稿〈複製〉
太宰治『人間失格』1948（昭和23）年７月　筑摩書房
こまつ座第19回公演「人間合格」台本　1989（平成元）年12月　紀伊國屋ホール
太宰治文学碑完成除幕式案内　津島美知子宛　1953（昭和28）年10月15日

檀　一雄（だん　かずお）

檀一雄「自画像」額装
檀一雄「太郎生後九十四日」額〈複製〉
写真パネル　新潮社提供
写真パネル　能古島の草庵「月壺洞」にて　1975（昭和50）年
檀一雄「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙
檀一雄「秋果百頴」額装
蔡元培「半軒倚竹夜聴雨」「一盞秋燈閒讀書」幅
檀一雄「酔余二陶の図」額装
檀一雄「中国でのスケッチブック」
檀一雄「旅立ち」原稿〈複製〉
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年４月　作品社
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第１章）原稿〈複製〉
檀一雄『火宅の人』1975（昭和50）年11月　新潮社
檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年６月　新潮社

檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年６月　新潮社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年９月　新潮社
「真説石川五右衛門」新聞切り抜きスクラップ帳
愛用のワインボトルの籠
檀一雄「落日を拾ひに行かむ海の果」色紙

山本周五郎（やまもと　しゅうごろう）

写真パネル　秋山青磁 撮影　映画館
写真パネル　秋山青磁 撮影　書斎　間門園にて
映画「赤ひげ」ポスター　1965（昭和40）年　東宝
映画「赤ひげ」パンフレット　1965（昭和40）年　東宝
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年２月　文藝春秋新社
山本周五郎『さぶ』1963（昭和38）年８月　新潮社
「さぶ」ちらし　2003（平成15）年１月　新橋演舞場
映画「どですかでん」パンフレット　1970（昭和45）年　東宝
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年３月　八雲書店
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年２月　朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974（昭和49）年８月　実業之日本社
山本周五郎「青べか物語」原稿〈複製〉原本　県立神奈川近代文学館蔵
山本周五郎『青べか物語』1961（昭和36）年１月　文藝春秋新社
山本周五郎「季節のない街」新聞切り抜き

深沢七郎（ふかさわ　しちろう）

高橋忠弥 画　深沢七郎『楢山節考』（1957年　中央公論社）装幀原画
谷内六郎 画　深沢七郎『笛吹川』（1958年４月　中央公論社）装幀原画
今川焼屋「夢屋」ポスター　デザイン 横尾忠則
今川焼屋「夢屋」包装紙　デザイン 赤瀬川源平
映画「楢山節考」ポスター　1983年
写真パネル　ギターリストの頃
写真パネル　1957（昭和32）年１月
写真パネル　1976（昭和51）年４月６日、笛吹市石和町の甲運亭にて
写真パネル　夢屋にて　撮影 佐藤真樹
深沢七郎「楢山節考」原稿
「中央公論」第71年第12号　1956（昭和31）年11月
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年２月　中央公論社
『楢山節考』出版記念会次第
映画「楢山節考」プログラム　1958（昭和33）年４月　映画タイムス社
深沢七郎「笛吹川」草稿
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年４月　中央公論社
深沢七郎作　井伏鱒二に贈った将棋駒台
深沢七郎『甲州子守唄』1965（昭和40）年３月　講談社
映画「笛吹川」パンフレット　1960（昭和35）年
深沢七郎　川久保正郎宛葉書　1956（昭和31）年10月９日
深沢七郎　川久保正郎宛葉書　1957（昭和32）年10月31日
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎『言わなければよかったのに日記』1968（昭和43）年３月

山崎方代（やまざき　ほうだい）

山崎方代「ふるさとの右左口邨は骨壺の底にゆられて吾がかえる村」幅

山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」幅
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にあつた時父もよいにき吾もよいたり」幅
山崎方代「丸出しの甲州弁で申します花は死であり死も花である」額装
山崎方代「水晶の青い峠の頂きになんぢゃもんぢの木が立ってゐる」幅
山崎方代「茶碗の底に梅干が(の) 種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」幅
山崎方代「すりばちの底の方より太陽が燈(ともし)を付けて上って来る」幅
写真パネル　湯川晃敏氏撮影
山崎方代「山さくら花の盛りとなりにけり鎌倉山の春深くして」短冊
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にあつた時父もよいにき吾もよいたり」短冊
山崎方代「寂しくて一人笑えば茶ぶ台の上の土瓶が笑い出したり」 短冊
山崎方代「一ひらのさくらの花が流れ来て黒き机の上にとまれり」短冊
山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物
山崎方代「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」短冊
山崎方代「冬の陽が遠く落ちゆく橋の上ひとり方代は瞳をしばだたく」短冊
山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられてあが帰る村」色紙
山崎方代「榧の木は苗のうちより名木のそしりを受けて伸びてゆくなり」色紙
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「まつ黒くすみわたる馬の目の中に釜無川が流れている」短冊
山崎方代「わが歌の秘密」草稿　その１〈複製〉
方代愛用の品　拡大鏡　眼鏡　万年筆　茶碗
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月　山上社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月　短歌新聞社

中村星湖（なかむら　せいこ）

中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
「早稲田文学」第18号　1907（明治40）年５月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇　1915（大正４）年10月　植竹書院
島崎藤村　中村星湖宛葉書　1921（大正10）年12月17日
田山花袋　中村星湖宛書簡　1909（明治42）年12月９日
夏目漱石　中村星湖宛書簡　1911（明治44）年７月25日
坪内逍遙　中村星湖宛書簡　1928（昭和３）年８月28日

前田　晃（まえだ　あきら）

田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
小出楢重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画〈複製〉1920（大正９）年11月
前田晃『少年国史物語』原稿〈複製〉
田山瑞穂宛　前田晃死亡通知はがき　複製
島崎藤村　前田晃宛書簡　1942（昭和17）年（推定）７月20日

三井甲之（みつい　こうし）

「アカネ」創刊号表紙原案　1908（明治41）年２月〈複製〉
伊藤左千夫　三井甲之宛書簡　年不明11月21日
長塚節　三井甲之宛書簡　1908（明治41）年（推定）１月８日〈複製〉
三井甲之訳『ファウスト』1930（昭和５）年
三井甲之愛用の品　筆立・眼鏡・シルクハット・インキ壺・ペン皿
三井甲之「大伴家持」草稿
三井甲之「友へ　海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」短冊

中里介山（なかざと　かいざん）

中里介山「大菩薩峠　流転の巻」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠　他生の巻」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠　めいろの巻」新聞切り抜き
中里介山『大菩薩峠』1918（大正７）年11月　玉流堂
『石井鶴三挿絵集』第１巻　1934（昭和９）年11月　光大社
「大菩薩峠」リーフレット　1951（昭和26）年１月　新国劇初春公演　名古屋御園座
「隣人之友」通巻84号　1933（昭和８）年12月

伊藤左千夫（いとう　さちお）と山梨の歌人たち

「馬酔木」第３巻第２号　1906（明治39）年２月
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年７月６日消印
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年８月３日消印
伊藤左千夫　岡千里宛葉書　1906（明治39）年11月11日
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1911（明治44）年12月11日
神奈桃村　岡千里宛葉書　1910（明治43）年１月３日消印
神奈桃村　岡千里宛葉書　年不詳３月10日
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいたし芽あるとなきを選りわけるかも」短冊
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
「馬酔木」第３巻第６号　1906（明治39）年10月〈復刻〉
「アラヽギ」第２巻第１号　1909（明治42）年９月
岡千里「吾子等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
岡千里「落椿地上にあそび居たりける青鵐のつがひ枝に上れり」短冊
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊
岡千里「木末より一輪落ちて花くずのくれなゐ叫び動きたるかも」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂う初冬の風」短冊
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊

秋山秋紅蓼（あきやま　しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼自画賛「朝は花を一輪さしてこゝろ定る」色紙
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年１月　沙羅書店
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿〈複製〉
秋山秋紅蓼「うめの花枝にひらきかほり来るあさ」短冊
秋山秋紅蓼「チュリップ」原稿
秋山秋紅蓼「夏みかん」原稿
秋山秋紅蓼 画「朝顔」「銀座大増の大福」

田中冬二（たなか　ふゆじ）

田中冬二愛用の万年筆
田中冬二　落款印影
田中冬二「奈良田にて」色紙〈複製〉
田中冬二　深沢正志宛書簡　1964（昭和39）年４月９日〈複製〉
田中冬二「春のステップ」草稿
田中冬二「夏の魅惑」草稿
田中冬二「山郷」草稿
田中冬二「正月の顔」草稿

木々高太郎（きぎ　たかたろう）

「新青年」第15巻第13号　1934（昭和９）年11月
木々高太郎『折蘆』1937（昭和12）年11月　春秋社
木々高太郎「笛吹　―或るアナーキストの死」原稿〈複製〉
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年３月　世界社
木々高太郎「少年時代に読んだ本」原稿
小栗虫太郎　木々高太郎宛葉書　1937（昭和12）年２月10日消印
林髞『頭のよくなる本』（カッパ･ブックス）1960（昭和35）年10月25日９版（初版同年10月10日）
　　光文社
「シュピオ」第３巻第５号　1937（昭和12）年６月

小尾十三（おび　じゅうぞう）

「文藝春秋」第22巻第12号　1944（昭和19）年12月
小尾十三旧蔵　芥川賞記念品の腕時計
小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉
小尾十三「親子だるま」原稿
小尾十三「からすの親子」草稿
小尾十三　井伏鱒二宛書簡　1950（昭和25）年６月２日
川端康成　小尾十三宛書簡　1951（昭和26）年５月９日

村岡花子（むらおか　はなこ）

村岡花子旧蔵　モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』1908年〈復刻〉
原本　赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
村岡花子『赤毛のアン』翻訳原稿〈複製〉原本　赤毛のアン記念館・村岡花子文庫蔵
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年５月　三笠書房
村岡花子『随筆集　心の饗宴』1941（昭和16）年４月　時代社
『村岡花子童話集　１年生』1941（昭和16）年１月　文昭社
『道雄を中にして』1926（大正15）年12月　非売品
村岡花子　前田晁宛葉書　1926（大正15）年10月22日
村岡花子　前田晁宛書簡　1926（大正15）年（推定）12月21日
村岡花子　前田晁宛書簡　1927（昭和2）年10月27日
村岡花子『王子と乞食』1949（昭和24）年１月　実業之日本社
村岡花子『王子と乞食』1934（昭和9）年７月　岩波書店
村岡花子「初めての本」原稿
「横浜歩道」第38号　1964（昭和39）年11月

徳永寿美子（とくなが　すみこ）

徳永寿美子「あんじゅとずしおう」原稿
徳永寿美子「あんじゅとずしおう」草稿
徳永寿美子『あんじゅとずしおう』1958（昭和33）年９月　実業之日本社
徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉
徳永寿美子「子ばとのぽうちゃん」草稿
徳永寿美子「さむいさむいあさです」草稿
徳永寿美子「あしたはクリスマス」草稿
「母」第６年第８号　1920（大正９）年８月〈複製〉原本　成蹊学園学園史料室蔵
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年２月　アルス〈複製〉
徳永寿美子「甲斐のくに七里が岩のいわつつじあやに咲きけんう月のまひる」短冊

八木義徳（やぎ　よしのり）

「満洲観光聯盟報」第５巻第６号　1941（昭和16）年６月

八木義徳「文章は血と土とそして海の風から生れる」色紙
八木義徳「胡桃」原稿
「文藝」1973（昭和48）年12月
「日本文学者」創刊号　1944（昭和19）年４月
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年３月　世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年８月　河出書房新社
『八木義徳全集』第３巻　1990（平成２）年５月　福武書店　妻正子に宛てた献辞入
『八木義徳全集』第５巻　1990（平成２）年７月　福武書店　妻正子に宛てた献辞入
八木義徳『生れ出づる悩み』（有島武郎）原稿

武田泰淳（たけだ　たいじゅん）

武田泰淳「小事」原稿
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月　中央公論社
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月　講談社
武田泰淳「聖女侠女」原稿
映画「ひかりごけ」パンフレット
武田泰淳「深澤七郎『庶民烈伝』」原稿
武田泰淳　檀一雄宛葉書　1972（昭和47）年６月29日消印

李良枝（イ・ヤンジ）

愛用の筆筒、文具類
李良枝『由熙』1989（平成元）年２月　講談社
芥川賞正賞の記念品
李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「碧落」草稿
李良枝「夜寒」草稿
『李良枝全集』1993（平成５）年５月22日　講談社

辻　邦生（つじ　くにお）

「海」創刊特大号　1969（昭和44）年７月
「新潮」1982（昭和57）年２月
辻邦生「ある生涯の七つの場所　祭の果て」原稿
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年９月　新潮社
「銀杏散りやまず」モノオペラ　パンフレット
辻邦生　高室陽二郎宛書簡　1989（平成元）年11月４日
辻邦生『西行花伝』1995（平成７）年４月　新潮社

第3室　芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット　1904（明治37）年11月　耕牧舎
愛用の水泳帽
暑中休暇日誌　1908（明治41）年７月21日～８月31日
芥川龍之介「義仲論」原稿「東京府立第三中学校学友会雑誌」1910（明治43）年２月掲載
「東京府立第三中学校学友会雑誌」第15号　1910年２月

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正５）年２月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号　1916（大正５）年２月
夏目漱石『社会と自分』1915（大正４）年11月　実業之日本社
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正８）年１月　新潮社
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年５月　金星堂
芥川龍之介『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」巻子〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全５巻　1925（大正14）年11月　興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和２）年６月　文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和２）年４月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和２）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介　素描「亀」
芥川龍之介　水彩画「花」
芥川龍之介　水彩画「男性像」
芥川龍之介　水彩画「女性像」1910（明治43）年
朝鮮半島の地図
芥川龍之介　西村貞吉宛書簡　1921（大正10）年７月21日（推定）
芥川龍之介「主ぶり」軸装
芥川龍之介「抱虚懐欲歩古今」一枚物

【芥川の俳句】

芥川龍之介「黒南風の」他俳句草稿
芥川龍之介「札白し牡丹畑の夕あかり」他俳句草稿
芥川龍之介「日もすがら海鳴る音や麦の秋」他俳句草稿
芥川龍之介「喇嘛寺のさびしさつげよ合歓の花」他俳句草稿
芥川龍之介「Impromptu」俳句草稿
芥川龍之介「みぞるるや犬の来てねる炭俵」他俳句草稿
芥川龍之介「咲きたらぬ庚申薔薇を青嵐」他俳句草稿
芥川龍之介〈芭蕉雑記〉草稿
芥川龍之介　飯田蛇笏宛書簡　1923（大正12）年12月１日〈複製〉
飯田蛇笏　芥川龍之介宛書簡　1926（昭和元）年12月29日〈複製〉
「ホトトギス」1918（大正７）年９月
「ホトトギス」1919（大正８）年３月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月　新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和２）年９月号
『澄江堂句集』1927（昭和２）年12月　文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅〈複製〉
芥川龍之介「水虎晩帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介　山本喜誉司宛書簡　1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介　山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正６）年５月　阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正７）年７月　春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介　井川恭宛書簡　1914（大正３）年１月21日〈複製〉
原本　大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1918（大正７）年８月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号　1918（大正７）年７月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和３）年６月　改造社〈復刻〉
芥川龍之介作　楽焼皿「小心火盗」
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ―天災地変と文学」展

「芥川龍之介が見た関東大震災」

「改造」第５巻第10号　1923（大正12）年10月（再版）
「女性」第４巻第４号　1923（大正12）年10月
「改造」第５巻第11号　1923（大正12）年11月
「文藝春秋」第１年第11号　1923（大正12）年11月

第4室　飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

蛇笏・龍太使用の硯　億兆会贈呈。木製蓋付き。雨畑硯。
飯田家家相図　1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル　早稲田大学時代の蛇笏
「ホトトギス」第12巻第１号　1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複刻〉
若山牧水　飯田蛇笏書簡　1910（明治43）年７月29日
若山牧水　飯田蛇笏書簡　1910（明治43）年８月22日
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額　1914（大正３）年〈複製〉原本　個人蔵
「ホトトギス」1914（大正３）年11月 「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「ホトトギス」雑詠欄投句稿（複製）原本　天理大学附属天理図書館蔵
「キララ」創刊号　1915（大正４）年５月〈複製〉原本　東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第２号　1915（大正４）年６月〈複製〉原本　東京都近代文学博物館蔵
飯田蛇笏「虫の夜の更けては葛の吹き返す」幅　1926（大正15）年
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛍かな」幅　1927（昭和２）年